

とがどのような形で具体化されているのか。

合併直後であり、どの地区の市民でも、誰でも参加ができ、連帯感の醸成が図れることをめざして、例えば「路上には、ゴミや糞のない、緑と花いっぱい日本一きれいなまちにする。」等、身近なことで手の届く目標を定めることは如何か。

2 久居団地一帯の排水対策に対する市の基本姿勢について

- (1) 合併前の市町村間で定められた新市まちづくり計画の達成優先度をどのように認識しているのか。特に、生活安全上、最も危険度、緊急度が高い災害にかかる久居団地一帯の排水対策は、今回の予算案でなぜ事業着手がなされていないのか。

「平成19年度以降において、雨水対策を見直す計画」程度の認識レベルで処理する問題とは考えられない。ここ数年の異常気象と周辺土地のコンクリート化で、この地区の排水能力のキャパシティオーバーが急激に進んでいる。緊急避難的対策も含めて、今年の雨、来年の雨に対しては、どのような対応をすればよいのか。早急な対策が必要である。

- (2) 10数年前となる志登茂川水害訴訟事件では、多大な労力を費やして被災者と争った貴重な教訓を得たと思うが、久居団地において被害が生ずれば、被災することを予知していて対応しない人災となり、不作為である未必の故意と非難されかねない。このような事態になれば、どのように対処するのか。

緊急度からいけば、財政難の理由で予算化しないのは、画一

的で応用力のない行政の見本のようである。血の通った行政として、メリハリのある事業採択をするべきであり、藤堂高虎公の名言「小事は大事、小事は大事と慎むべし。」を肝に銘じて対処願いたい

問 被災者の身になれば、自ずとしなければならぬ。緊急対策を

答 緊急避難的な対策として実施可能な排水路の部分改修などの方法があれば実施したい。今後は、重点対策候補地における解決策検討のため業務委託を実施したい。

3 「道の駅」の設置について

- (1) 3月議会では、「榊原温泉、風力発電群、森林・里山の癒し系資源を有機的に連携させ、地産地消による農産物販売と市民交流の場として、「道の駅」による人・物・情報の交流施設を設置する考えはあるか。」と質問したが、その回答は余りにも主体性に欠け、覇気のない寂しいものであった。特に合併後の広域的な視点でのまちづくりにおいては、シナジー（相乗）効果が大きい期待できる事業として、必須の検討課題であるが、その考え方は。

新津市のイニシアチブを発揮する事業として、行政が中心的役割のもとに、検討、推進を願う

- (2) 旧久居市から継続とされている

る津商工会議所との課題研究の協議、JA等との連携のその後は

4 榊原地区におけるフェロシルトの搬出問題について

- (1) 昨年11月に久居市議会において質問した内容が、杞憂に終わっていない。当初は2月末までに搬出できるとの回答であり、その後、再修正され今月（6月）末で搬出完了となったが、これ以上搬出が延期されることはないのか。搬出時の交通安全対策、搬出車の車輪周りの六価クロムの洗浄対策は、引き続き万全の態勢で願う。

万一、延期されるような事態になれば、公費等の出費増、約束違反に対してのペナルティを課す考えはあるか

- (2) 榊原地区2ヶ所に、フェロシルト11,362トンが埋められており、当初はその周辺の土壌を含めて約1.5倍の量の土を搬出する予定とされていた。しかし、現在は総量約42,000トンと膨らみ、特異な倍率で土壌の搬出をしているが、なぜこのような多量になったのか。マニフェスト（廃棄物管理表）との整合性、ボウリング調査の結果から何が見えたか

なお、時間的制約があり、要点のみ簡潔に答弁願ひ、特に過去の経緯については答弁を要しません。

▶ 床上床下浸水78戸。（久居団地・平成16年9月）早急な対策を！



写真提供：伊藤良明氏（久居野村町）

